



横浜市歴史博物館・神奈川大学日本常民文化研究所主催展覧会「和船と海運」

千石船

順風満帆

和船の構造と技術

じゅんぷうまんぱん
せんごくぶね



菱垣廻船模型

2017年

1.30[月]~3.17[金]

神奈川大学
日本常民文化研究所

【開館時間】9:00~17:00 (入館は16:30まで)
【休館日】土日祝、および2月6日(月)~8日(水)
観覧料無料



横浜市歴史博物館・神奈川大学日本常民文化研究所主催展覧会「和船と海運」

津々浦々 百千舟

江戸時代横浜の海運

つつうらうら
もちふね



2017年

1.28[土]~3.20[月・祝]

横浜市歴史博物館

【開館時間】9:00~17:00 (券売は16:30まで)

【休館日】毎週月曜日 ただし3月20日(月祝)は開館

【観覧料】

	企画展	常設展共通
一般	300円(240円)	500円(400円)
大学・高校生	200円(160円)	300円(240円)
小・中学生	100円(80円)	100円(80円)

()内は20名以上の団体料金

津々浦々百千舟

つつらうら
もちふね

江戸時代横浜の海運

横浜市歴史博物館

国際貿易港として世界中から船が来航し「今は百舟百千舟」と横浜市歌にうたわれる横浜。しかし幕末の開港に先立つ江戸時代から、横浜地域の海上には数多くの船が姿をみせ、全国津々浦々と横浜を結んでいたのです。

神奈川湊には西日本や東北地方の湊から来航した弁才船がさまざまな商品をもたらしました。江戸湾には五大力船や押送船が走り、江戸や房総半島と横浜をつないでいました。千葉や群馬など関東の内陸部の川には高瀬船が運航し、横浜とも商品を通じた交流があったのです。本展では江戸時代の横浜をめぐる海運・水運の具体的なようすを、和船模型のほか古写真・絵図・絵巻物・浮世絵・古文書など多くの資料から紹介します。

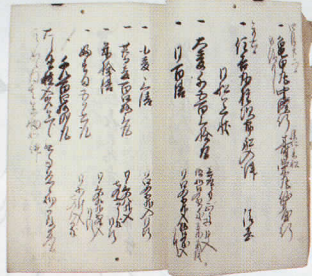
展示構成

プロローグ 和船の移り変わり
ー丸木船から弁才船へー

- I章 上方からの航路と神奈川湊
- II章 蝦夷地・東北と東廻り航路
- III章 江戸と横浜
- IV章 房総との海上交通
- V章 江戸川と神奈川
- VI章 横浜開港と水上のシルクロード



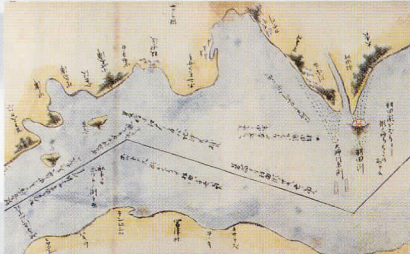
歌川広重「東海道五拾三次之内 神奈川 台之景」
(横浜市歴史博物館蔵)



八戸と神奈川の商品取引を示す古文書
天保10年(1839)「船手御用留 十一番」
(八戸市博物館蔵)



江戸川と高瀬船を描いた絵巻物「利根川名所勝景図録」
(船橋市西図書館蔵)



横浜付近の航路絵図「江戸より伊勢へ海上航路絵図」
(神戸大学海事博物館蔵)

展示関連講座

- 2月11日(土) 講師：刈田 均 「鶴見川の水運」
- 3月11日(土) 講師：吉崎雅規 「近世横浜をめぐる海運」
- 3月20日(月祝) 講師：昆 政明 「和船の構造と航海技術」

いずれも 14時～15時30分
参加費 500円
2月11日は定員40名、ほかは定員150名
当日受付・先着順

フロアレクチャー

担当学芸員が展示の見どころを解説します

- 2月11日(土)11時～
 - 2月26日(日)11時～ 14時～
 - 3月11日(土)11時～
- 所要1時間程度

関連イベント

ボートツアー 3/8(水)

「神奈川湊と横浜港」

詳細はホームページを
ご覧ください

江戸湾で活躍した五大力船の模型
(神奈川大学日本常民文化研究所蔵)

沖田遺跡出土準構造船
(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

*掲載資料は展示替等によりご覧になれない場合がございます。

横浜市歴史博物館 企画展示室

交通：横浜市営地下鉄「センター北」駅下車、徒歩5分
駐車場あり(1時間 200円)

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央 1-18-1
Tel.045-912-7777 Fax.045-912-7781
http://www.rekihaku.city.yokohama.jp

今回の展覧会
「横浜発掘物語2017」
2017年4月4日(火)～6月11日(日)

横浜市歴史博物館は(公財)横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者として管理・運営しています。

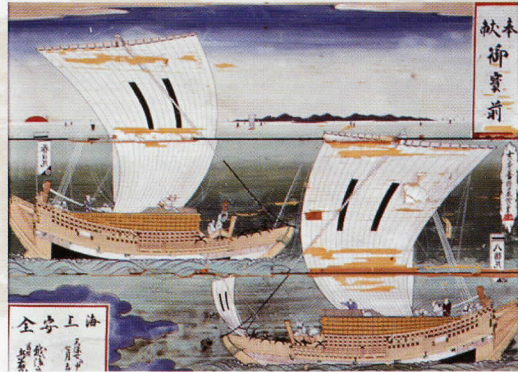


横浜のむかしを見た後は、
「観覧車」に乗って横浜のいまを
空からながめよう!

日付印のある企画展チケット半券で、
モザイクモール港北の観覧車に無料で
ご乗車いただけます。
(ただし1乗車定員4名で、当日1回
に限ります)

協賛：モザイクモール港北

江戸時代、国内の物資輸送は弁才船を中心とする廻船によって担われていました。弁才船の中で千石(150トン)の荷物を積むことが出来る大型船は千石船といわれ、和船の代表とみなされました。和船は中国船や西洋船とは異なる構造で、造船方法や船大工道具もそれに応じた独特のものが使われています。また、弁才船の帆装は大きな一枚帆が特徴で、近年復元船の帆走実験が行われ、すぐれた帆走性能が明らかになっています。本展では弁才船を中心とした和船の特徴を、船舶模型・船大工道具などの資料とわかりやすいパネルで紹介しします。



船絵馬(青森県円覚寺蔵・写真パネル)



復元弁才船みちのく丸(写真パネル)



弁才船実物大断面模型



御座船模型

丸子船模型



船大工道具(スリアワセノコ)



船大工道具(ツバノミ)

展示構成

プロローグ 和船研究の始まり

- I章 和船の特徴と復元帆走 すぐれた沿海航路専用船
- II章 独特な建造技術 船材の接合と加工技術
- III章 いろいろな和船 御座船・荷船・漁船・川船
- IV章 中国船と洋式船 和船との比較

展示関連講座 「船絵馬を読み解く」

3月17日(金) 講師：昆 政明 14時～15時30分
定員70名 参加費無料 当日先着順
会場：神奈川大学横浜キャンパス3号館206教室

神奈川大学 横浜キャンパス3号館 展示ホール

交通：○東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分

○横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用

(東神奈川駅西口経由/約14分)

・1番乗場36系統菅田町/緑車庫行・約14分「神奈川大学入口」

または「六角橋西町」下車

・1番乗場82系統八反橋/神大寺入口行・約14分「神奈川大学入口」

または「六角橋西町」下車

○片倉町駅前(横浜市営地下鉄)より横浜市営バス利用(約6分)

・2番乗場36・82系統東神奈川駅西口/

横浜駅西口行・約6分・「六角橋西町」または「神奈川大学入口」下車

※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。

連絡先：神奈川大学日本常民文化研究所
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
Tel. 045-481-5661 (内線 4358) Fax 045-413-4151



順風満帆 千石船

じゅんぷうまんぱん
せんごくぶね

和船の構造と技術

神奈川大学日本常民文化研究所